

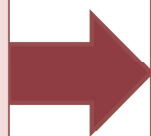
リスクアセスメント支援ツールの開発

Sdx02-07 小窪 英雄

リスクアセスメント実施における問題点

事故を防止する施策の一環として、リスクアセスメントを実施している。初期の段階では、下記の内容が問題点として考えていた。

- ・時間がかかってしまっている。
- ・その対策が適切かが判断できていない
- ・データの利活用できていない



手法・ツールの適用による解決

1. 仮説を立て検証実施
ニーズのメカニズムを検討し、The Lean Canvasを埋め、インタビューを実施し、課題の整理
2. インタビューをもとに抽出した課題の解決案考案
COPILOT、ノーコードツール、BIツールを用いた
3. 課題解決案の検証
解決案がニーズに合うかを再インタビュー実施

ニーズのメカニズム

対象者：ファシリテーター(30代のエンジニアもしくは管理者)

ジヨブ	リスクアセスメントを簡単に正確に行いたい
課題 不満・要望	リスクアセスメントに時間がかかる、アセス実施する上で目安が欲しい
現状対策	過去事例フォルダを検索かけ、類似事項を探している
残課題	アセスするのに時間がかかっているし、出した対策が適切か分からない

インタビューから見えてきた課題

- 課題1：一定以上のレベルのリスクを簡単に抽出できる、議論すること自体は必要
- 課題2：事象事例を簡単に確認できる検索性の良いツールが必要
- 課題3：安全設計指針の内容を簡単に参照できる
- 課題4：過去リスクアセスを簡単に確認できて、検索性がよいツールが必要

解決策

- 課題1
質問するプロットの型を決めCOPILOTに3回チャット履歴を基本実施
- 課題2
ノーコードアプリを利用、安全ダッシュボードを利用(会社の要決裁)CHARTGPTに自社の過去事例をアップロード
- 課題3
セキアなチャットボットbyGPT3.5 の利用検討



The Lean Canvas_インタビュー後の見直し 青い文字が当初からの変更部分

Problem リスクアセスメントに時間がかかる、抽出する上で目安が少なく、結果が人によって異なる感がある。	Solution ノーコードや過去の自社の実務事例、リスクアセスメントを利用してリスクアセスメントの提案をできるようにする。	Unique Value Prop. リスクアセスメントのプロセスの自動化により、一定かつ確実に、安全対策を事故事例参照に連携できる。	Unfair Advantage 自社事例の活用	Customer Segments 30代のエンジニアもしくは管理者
Existing Alternatives 過去事例フォルダを検索して、類似事項を探し、類似しながらリスクアセスメントをしている。	Key Metrics アプリの稼働件数 安全ダッシュボードの稼働件数	High-Level Concept アプリの稼働件数	Channels Copilot ノーコードアプリ BIツール	Early Adopters 作業環境改善が必要だと思いつながら作業術している30代のエンジニア
Cost Structure ツール開発費用 ツール維持費用	Revenue Streams 外部のチャットボットを利用する場合 安全に作業ができる環境 事故発生時に影響の減少			